

♪ 2023年度 **poco a poco** ♪

Nr. 3 2023年5月4日(木)

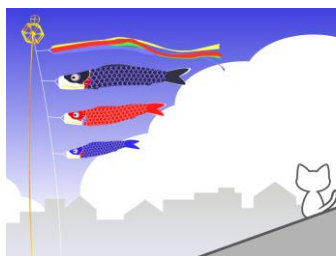
文責:プファイル・辰巳

## 5月がやって来た!

日本ではゴールデンウィーク、ドイツでも祝祭日の多い5月がやって来ました。なかなかスッキリとは晴れない4月のお天気でしたが、5月のお天気はどうでしょう。小学部の遠足や運動会に向けての練習など、青空の下でできるといいですね。

さて、新学期が始まって早3週間。平常授業が始まってからでも2週間が経とうとしています。学校生活のリズムには慣れましたか。

実技教科の教室移動やパウゼ遊びのために校庭に向かう子どもたちが、笑顔で足取りも軽く歩いている姿を見ると、こちらまで楽しくなります。週1回か2回しかない音楽の授業ですが、「音楽する喜び」を味わえる授業になるように努力したいと思います。音楽室にもみなさんの笑顔が溢れ、明るい歌声が響くといいですね。



### <音楽こぼれ話

#### 音楽の中で活躍する動物たち ① >

みなさんは、「動物をテーマにした音楽」といえばどんな曲が思い浮かびますか。クラシック音楽では、ショパンの「子犬のワルツ」やサン・サーンスの「白鳥」などでしょうか。ミュージカルなら「ライオン キング」や「キャッツ」がありますね。日本の童謡の中にも、動物がたくさん登場します。「犬のおまわりさん」「ぞうさん」「小鳥のうた」「めだかの学校」…。1年生の教科書だけでもたくさんの動物たちが活躍します。

鳥たちのようにその鳴き声であったり、馬の疾走する足音であったり、音そのものを楽器などで再現する音楽があれば、白鳥が優雅に水面を泳いでいく姿やハチがブン

ブン飛ぶ姿など、動物の様子を表現する音楽もあります。数え上げてみると、実に大小様々な動物たちの姿が、音楽の中にありました。それだけ人間の生活と動物たちとの関わりや交流が深いということでしょうか。そんな動物たちが登場する音楽を取り上げながら、今年の「音楽こぼれ話」を進めていこうかな、と考えています。

中でも、まず注目したい動物は「鳥」です。ドイツ語には Singvögel (歌う鳥) という分類があり、これは必ずしも歌声が美しい鳥というわけではないようですが、すてきな呼び方ですね。春になると夜明けに鳥たちの鳴き声が聞こえてきて、うれしくなります。ウグイス、ツグミ、ヒヨドリ、ヒバリ、ホトギスなど、鳴き声の美しい鳥はたくさんいます。イタリアを代表する作曲家ヴィヴァルディも、合奏協奏曲『四季』の「春」では、鳥たちのさえずりをヴァイオリンの音でみごとに表現しています。ヴィヴァルディはその他にも、「ゴシキヒワ」と題したフルート協奏曲も作曲しており、ヒワの鳴き声を模した旋律を、フルートやリコーダーがみごとに演奏します。

これに対してフランスの作曲家サン・サーンスは、水の上をすべるように優雅に泳ぐ白鳥の姿を、チェロが奏でる美しい旋律で表現しました。また、チャイコフスキーはバレエ「白鳥の湖」で、ドラマチックな白鳥の踊りをオーケストラで表現しました。



その他にも鳥たちが活躍する音楽はたくさんあります。次回も、もう少しいろいろな鳥たちに登場してもらいましょう。

### ちょっとだけ 演奏会情報

5月21日(日) 11時～ アルテオーパー 大ホールにて  
22日(月) 20時～ フランクフルト オペラ・ムゼウム・オーケストラ  
リスト: ピアノ協奏曲 第2番  
サン・サーンス: オルガン交響曲 他

6月11日(日) 19時～ アルテオーパー 大ホールにて  
マーラー・チャンバー・オーケストラ  
ランランのピアノ演奏  
ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第3番  
交響曲 第5番 他